

文書番号	I E C - 1 1	版	1.00
		全ページ	17 頁

エコアクション21
環境経営レポート 2022 年度版
第 1.00 版

(対象期間：2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日)



作成日 2023 年 1 月 30 日

発行日 2023 年 2 月 8 日

株式会社 池上鉄工所

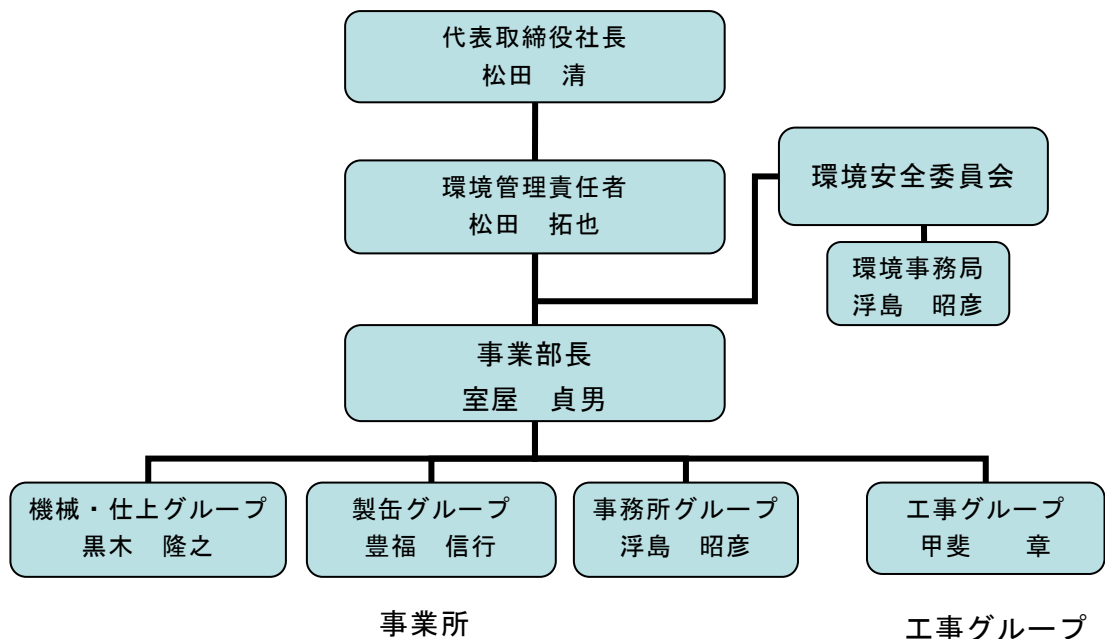
目次	1
1. 組織の概要	2
2. 環境経営方針	4
3. 環境経営目標	5
3.1 環境経営目標の設定（3ヵ年計画）	5
3.2 本年度の環境経営目標	6
4. 環境経営計画	6
5. 環境経営目標の実績	6
6. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	6
6.1 二酸化炭素排出量の削減	6
6.2 廃棄物排出量の削減	8
6.3 水資源投入量（排水量）の削減	10
6.4 化学物質購入量の削減	11
6.5 グリーン購入	11
6.6 本社事業所周辺の清掃	12
6.7 環境に配慮した工事施工	12
6.8 環境経営計画の評価	13
6.9 次年度の取組内容	14
7. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無	16
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	17

1 組織の概要

- 1.1 事業所名 株式会社 池上鉄工所
- 1.2 代表者氏名 代表取締役社長 松田 清
- 1.3 事業所所在地 宮崎県延岡市大武町 39 番地 6
- 1.4 設 立 1946 年（昭和 21 年）10 月 11 日
- 1.5 事業活動の範囲 機械装置及び部品の製造及び機器据付配管工事
（建設業許可番号 宮崎県知事許可 般-29 第 1217 号）
許可を受けた建設業：管工事業・鋼構造物工事業・機械器具設置工事業
- 1.6 事業内容
各種産業機械・自動化・装置等の設計製作及び据付・保全工事
圧力容器の設計製作及び据付
鋼構造物の設計製作及び据付
各種プラント配管、焼却炉等環境衛生装置の製作及び据付
プラスチック成型金型の設計製作及び修理
金属プレス加工
精密機械部品製作
- 1.7 主要製品及び加工内容
金型・治工具製作、省力化・自動化装置製作
MC 加工、フライス加工、旋盤加工、ワイヤー放電加工、
プレーナー加工、溶接加工
- 1.8 環境管理責任者氏名及び連絡先 松田 拓也
TEL：0982-34-3211 FAX：0982-35-4859 E-mail：takuya@ikegamitekko.co.jp
- 1.9 環境事務局担当者氏名及び連絡先 浮島 昭彦
TEL：0982-34-3211 FAX：0982-35-4859 E-mail：a_ukishima@ikegamitekko.co.jp
- 1.10 事業の規模

活動規模	単位	2019 年 (18.10～19.9)	2020 年 (19.10～20.9)	2021 年 (20.10～21.9)	2022 年 (21.10～22.9)
製品販売量	百万円/年	1,122	883	889	733
従業員数	人	48	44	44	44
床面積	m ²	4,443	4,443	4,443	4,443
敷地面積	m ²	17,566	17,566	17,566	17,566

1.11 環境経営範囲及び組織運営体制（認証登録範囲）



※事業所とは、機械・仕上グループ、製缶グループ、事務所グループを指す。
 ※事務所グループは、営業グループ、購買グループ、総務経理グループ、管理グループとする。

【権限と役割】	
社 長	当社の環境経営の最高責任者として、次の役割を負う。 (1) 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 (2) 環境経営に関する基本理念・長期戦略・基本方針を制定し、基本的な環境目標を設定する。 (3) 環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。責任者には、役割、責任及び権限を明示する。 (4) 環境経営システムの構築・運営に関する情報を収集し、方針・目標をはじめ、システム全体の見直しを行い、必要があれば改定を指示する。
環境管理責任者	(1) 社長に代わりガイドラインの要求事項を満たす環境システムを構築・運用し、その状況を社長に報告する。 (2) 環境経営システムの構築と運用を円滑に行い、代表者による全体の評価と見直しのための情報として、その構築・運用に関する情報を社長に提供する。
事業部長	各グループを統括し、社長及び環境管理責任者を補佐する。
グループ責任者	(1) 社長及び環境管理責任者を補佐し、掌握範囲内の全員参画による環境経営システムの運用と改善を推進する。 (2) 管理範囲内において、全員参画による環境経営システムの運用及び管理の責務を負い、必要な教育訓練を図る。
環境安全委員会	定例会とし（原則毎月）エコアクション 21 の啓蒙浸透を図る。
環境事務局	環境安全委員会の事務局機能を有する。また、エコアクション 21 に関する書類作成・立案及び管理業務、取りまとめを行う。

2 環境経営方針

環境経営方針

【環境理念】

株式会社 池上鉄工所は、機械部品加工・省力化機器設計製作、金型・搭槽類・熱交換器・圧力容器・架台ユニットの製作、プラント施工等の事業を通して、人材育成・採用、企業ブランディングを推進し『モノづくり業界を変革し、日本を発展させる』のビジョンの元、社会に貢献し、社会と共に栄えることを目指しています。

低炭素社会・循環型社会・自然共生社会により持続可能な社会を形成することの重要性を自覚し、エコアクション21環境マネジメントシステムによる環境負荷削減、環境配慮製品・サービス活動を展開します。

【環境行動指針】

1. 環境目標・計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
2. 具体的な取り組みとして、次のことを推進します。
 - ① 節電・省エネルギーに努め、二酸化炭素の排出量を削減します。
 - ② 産業廃棄物及び一般廃棄物は、3R（リデュース・リユース・リサイクル）に努めます。
 - ③ 水の使用量の削減に取り組みます。
 - ④ 化学物質の徹底管理と削減に取り組みます。
 - ⑤ グリーン購入に努めます。
 - ⑥ 本社事務所・工場周辺の環境美化に努めます。
 - ⑦ 環境に配慮した工事施工に取り組みます。
3. 環境関連法規制等を遵守します。

制定日 2007年10月1日

改訂日 2021年10月1日

株式会社 池上鉄工所

代表取締役社長 松田 清

3 環境経営目標

3.1 環境経営目標の設定（3 カ年計画）

2022 年度より 2024 年度までの 3 カ年の環境経営目標を下記のように設定した。

【 2022 年度から 2024 年度までの環境経営目標 3 カ年計画 】

- ①二酸化炭素排出量を 3 年間で 6%削減する。
- ②廃棄物の総排出量を 3 年間で 6%削減する。
- ③水資源投入量（排水量）を 3 年間で 6%削減する。
- ④化学物質の購入量の把握、削減に取り組む。
- ⑤グリーン商品購入に努める。
- ⑥本社事業所周辺の清掃を月 1 回、行う。
- ⑦環境に配慮した工事施工を行う。

※基準データは 2019 年度から 2021 年度の実績の平均値とする。

環境経営目標 3 カ年計画の具体的な数値目標を図表-1 に示す。

環境経営目標 3 カ年計画の目標値								
項 目	2021 年度 実 績 (20.10~21.9)	2019~2021 活動実績 平均値 (基準値)	2022 年度 (21.10~22.9)		2023 年度 (22.10~23.9)		2024 年度 (23.10~24.9)	
			目 標	増減率	目 標	増減率	目 標	増減率
二酸化炭素 排出量(kg-CO ₂)	91,611	102,211	100,167	-2%	98,123	-4%	96,079	-6%
廃 棄 物 排 出 量 (ton)	76.1	43.7	42.8	-2%	42.0	-4%	41.1	-6%
水資源投入量(m ³)	964	1,508	1,477	-2%	1,447	-4%	1,417	-6%
化学物質購入量 (ton)	1.74	2.25	2.21	-2%	2.16	-4%	2.12	-6%
グリーン購入 (品目)	92	118	119.6	+1%	120.8	+2%	122.0	+3%
本社事業所周辺 の清掃活動(回)	10	12	毎月 1 回 (年間 12 回)		毎月 1 回 (年間 12 回)		毎月 1 回 (年間 12 回)	
環境配慮工事 施工	活動計画 遵守	活動計画 遵守	活動計画遵守		活動計画遵守		活動計画遵守	

※活動目標は、2019 年度～2021 年度の実績の平均値から 6%削減することを目標として計算しています。

※グリーン購入は、2019 年度～2021 年度の実績の平均値から 3 年間で 3%増加することを目標としています。

※増減率は、基準値を基準として計算しています。

※廃棄物排出量には、資源ごみは含まれておりません。

※九州電力 電力の CO₂排出係数は、2021 年度実績=0.463、基準値と 2022 年度以降=0.479 を使用。

図表-1 環境経営 3 カ年計画の数値目標

3.2 本年度の環境経営目標

環境経営目標 3 ヶ年計画を達成するため、本年度の環境経営目標の詳細を図表-2 に示す如く設定した。

4 環境経営計画

環境経営目標 3 ヶ年計画を達成するため、本年度の環境経営計画を策定したが、計画の詳細は、6.8 環境経営計画に対する評価 図表-17 (P13) を参照ください。

5 環境経営目標の実績

本年度の環境経営目標の実績を図表-2 に示すような結果となった。

(表中の達成率は、基準値からどれくらい達成したかを示す。2022 年度は基準値より 2% 削減 (グリーン購入は 1%増加) となるので、98%以下 (101%以上) で達成となる。)
但し、本社事業所周辺の清掃は 100%で目標達成。

本年度の環境経営目標の実績								
項目			単位	2021 年度 20.10~21.9 実績	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022 年度 (21.10~22.9)		
						目標	実績	達成率
二酸化炭素 排出量	購入 電力	200V	kWh	84,793	93,996	92,116	88,168	93.8%
		100V	kWh	52,167	53,957	52,878	58,213	107.9%
		合計	kWh	136,960	147,953	144,994	146,381	98.9%
		灯油	L	2,650	2,422	2,374	2,636	108.8%
		ガス (LPG)	m ³	5.3	5.5	5.39	6.1	110.9%
		ガソリン	L	7,790	8,725	8,551	7,801	89.4%
		軽油	L	1,331	1,918	1,880	1,317	68.7%
		二酸化炭素 排出量合計	kg-CO₂	91,611	102,211	100,167	98,271	96.1%
廃棄物 総排出量		コピー用紙使用量	枚	185,000	189,168	185,385	127,500	67.4%
		一般廃棄物排出量	ton	0.407	0.43	0.423	0.456	106%
		産業廃棄物排出量	ton	75.6	43.2	42.4	13.28	30.7%
		廃棄物排出量合計	ton	76.0	43.6	42.8	13.7	31.4%
	水資源投入量 (排水量)	m ³	964	1,508	1,477	3,170	210.2%	
	化学物質購入量	ton	1.74	2.25	2.21	1.74	77.3%	
	グリーン購入	品目	92	118	119.6	70	59.3%	
	本社事業所周辺の清掃	回	10	12	12	9	75%	
	環境に配慮した工事施工	回	活動計画遵守					

※九州電力 電力の CO₂排出係数は、2021 年度=0.463、基準値と 2022 年度以降=0.479 を使用。

図表-2 環境経営目標の実績

6 環境経営計画の取組結果の評価、次年度の取組内容

6.1 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減についての活動実績は、図表-3、図表-4 に示すように、全体では基準値に対して活動実績が 96.1%となり、目標を達成できた。

詳細を見てみると、購入電力 200V が基準値に対して 93.8%、購入電力 100V が基準値に対して 107.9%と増加した。これは基準値を変更したことにより、特に 100V は影響を受けてしまった。200V については 2016 年 11 月に工場内及び事務所内の水銀灯・蛍光灯を LED に交換したこと (一部は未交換)、また事務所 1 階経理室と 2 階控え所のアコンを交換し

たことが大きく省エネに繋がっていて、2019年9月にも事務所会議室・機械工場クリーンルームのエアコンを交換し、省エネ効果が継続している。

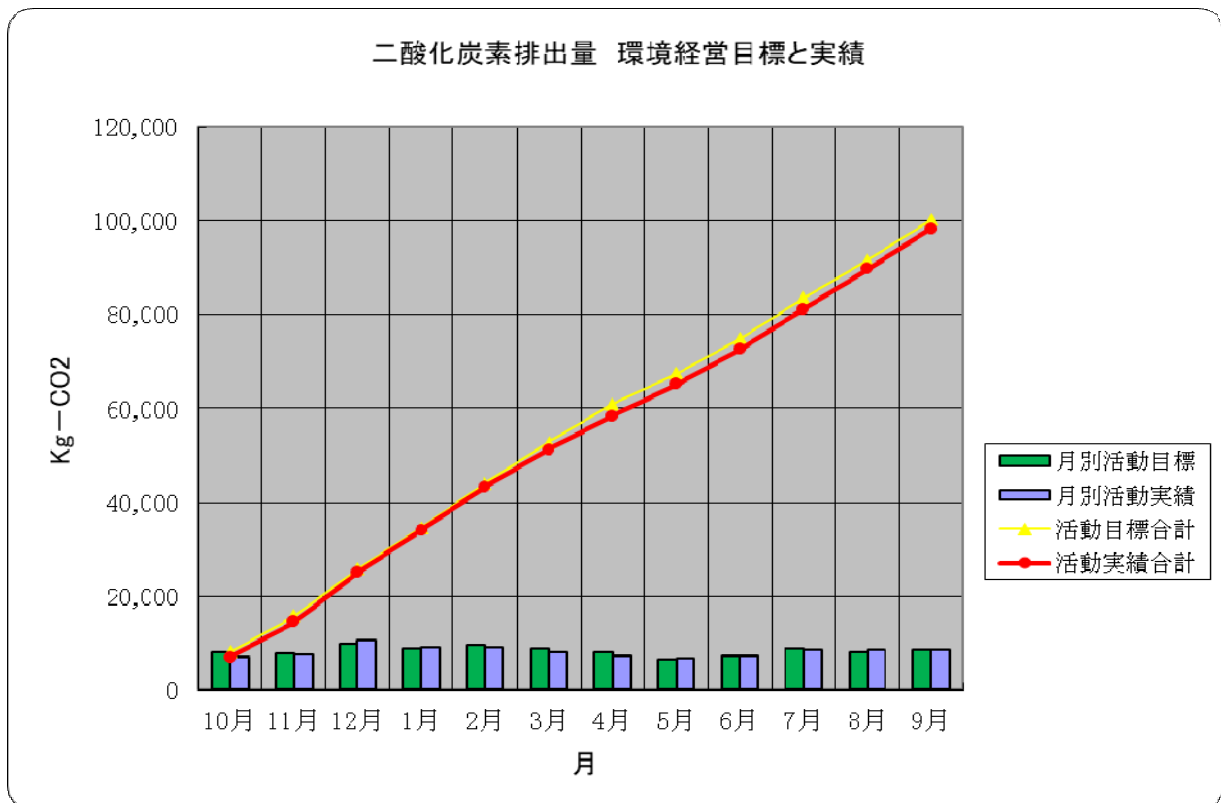
軽油が基準値に対して 68.7%、ガソリンが基準値に対して 89.4%と目標達成できたが、灯油は基準値に対して 108.8%と目標を達成できなかった。仕事の受注動向や遠隔地への出張、現場溶接作業でのエンジンウエルダー・発電機使用により左右されるが、アイドリングストップや使用しない時の電源オフ等の意識改革が進んでいると思われる。

またガス（LPG）が基準値に対して 110.9%となった。これはウォーターサーバーが故障して撤去したのもあるが、ウォーターサーバーのお湯が少しぬるめなので昼食用インスタントラーメンやスープを作る際に時間がかかるので、ガスでお湯を沸かす機会が多くなった為と思われる。（表中の達成率は、基準値からどれぐらい達成したかを示す。）

二酸化炭素排出量の環境経営目標と実績								
項目			単位	2021年度 20.10~21.9 実績	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022年度(21.10~22.9)		
						目標	実績	達成率
二酸化炭素 排出量	購入電力	200V	kWh	84,793	93,996	92,116	88,168	93.8%
		100V	kWh	52,167	53,957	52,878	58,213	107.9%
		合計	kWh	136,960	147,953	144,994	146,381	98.9%
		灯油	L	2,650	2,422	2,374	2,636	108.8%
		ガス(LPG)	m ³	5.3	5.5	5.39	6.1	110.9%
		ガソリン	L	7,790	8,725	8,551	7,801	89.4%
		軽油	L	1,331	1,918	1,880	1,317	68.7%
		二酸化炭素 排出量合計	kg-CO ₂	91,611	102,211	100,167	98,271	96.1%

※九州電力 電力のCO₂排出係数は、2021年度=0.463、基準値と2022年度以降=0.479を使用。

図表-3 二酸化炭素排出量の環境経営目標と実績表



図表-4 二酸化炭素排出量 環境経営目標と実績の推移

6.2 廃棄物排出量の削減

産業廃棄物・一般廃棄物・コピー用紙使用量の排出量については、図表-5~8 に示す。

産業廃棄物・一般廃棄物については、基準値に対して産業廃棄物が 30.7%、一般廃棄物が 106%となっており、廃棄物合計では 31.4%と目標を大幅に達成できた。

産業廃棄物については、2021 年 3 月に現場工事でコンクリート殻が多量に発生したが、この数値が基準値に組み込まれた為に目標数値が高くなったことにより、排出量減少により大幅な目標達成に繋がった。ただ受注状況次第では増減もあるので、管理が難しい。

一般廃棄物排出量については、分別ができていないことがあるので、分別方法を社内環境安全委員会や社員が集まる場で周知している。

コピー用紙使用量については基準値に対して 67.4%と目標達成できた。

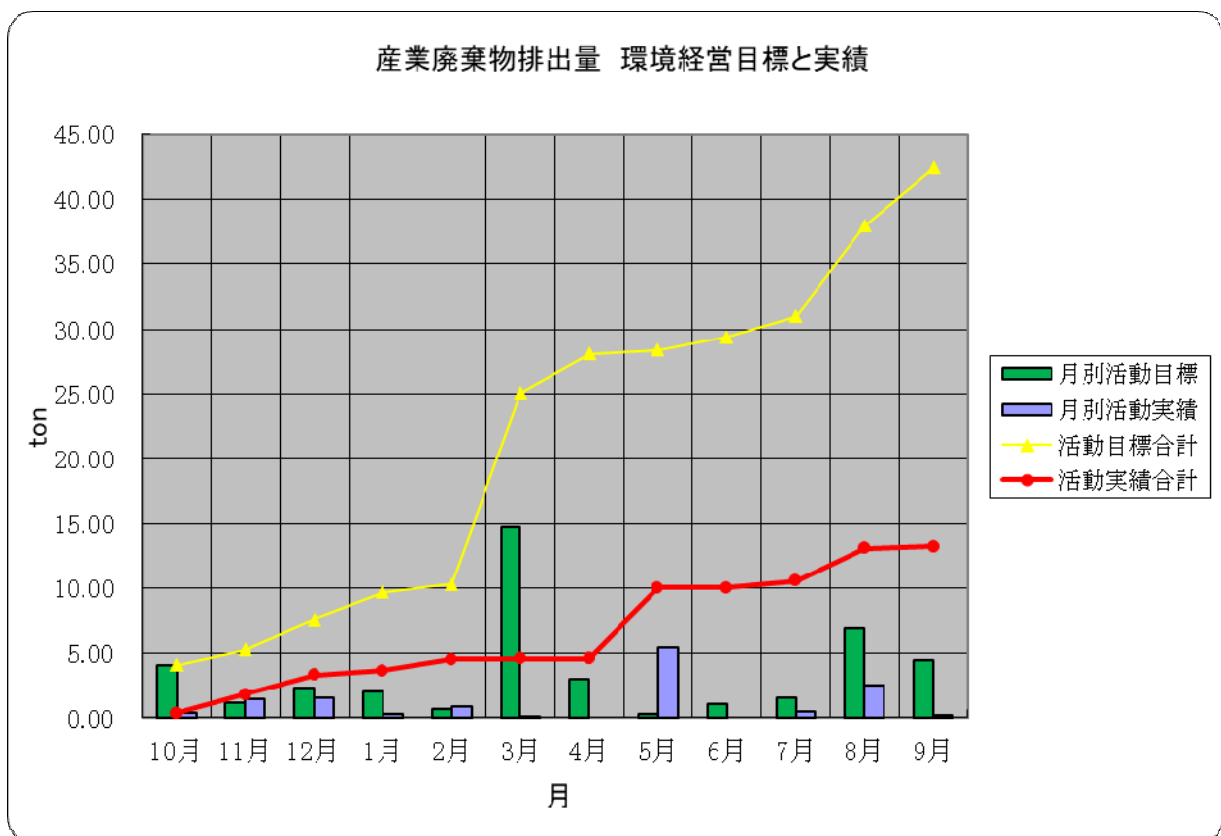
コピー用紙はまとめ買いをしていることもあり、数値管理が難しい。

(表中の達成率は、基準値からどれぐらい達成したかを示す。)

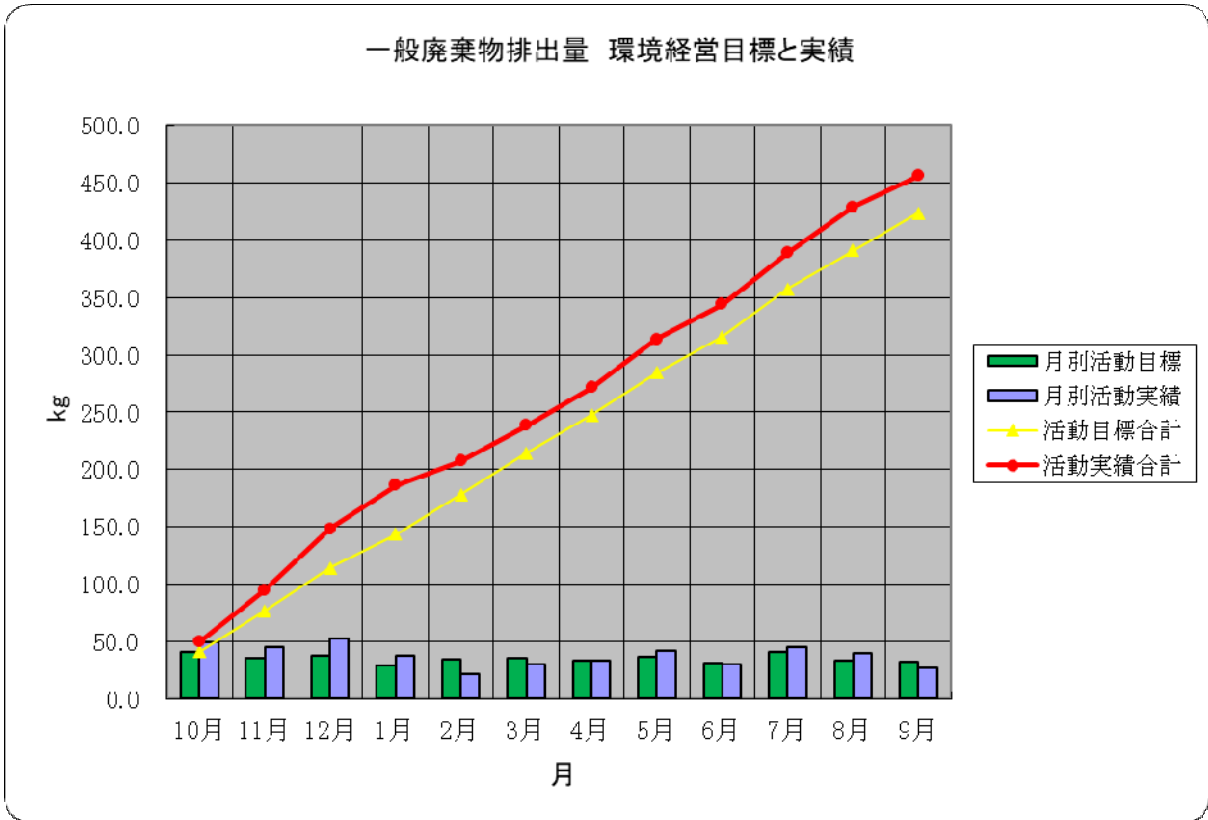
廃棄物排出量の環境経営目標と実績							
項目	単位	2021 年度 20.10~21.9 実績	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022 年度 (21.10~22.9)			
				目標	実績	達成率	
廃棄物 総排出 量	コピー用紙使用量	枚	185,000	189,168	185,385	127,500	67.4%
	一般廃棄物排出量	ton	0.407	0.43	0.423	0.456	106%
	産業廃棄物排出量	ton	75.6	43.2	42.4	13.28	30.7%
	廃棄物排出量合計	ton	76.0	43.6	42.8	13.7	31.4%

※廃棄物排出量には、資源ごみは含まれておりません。

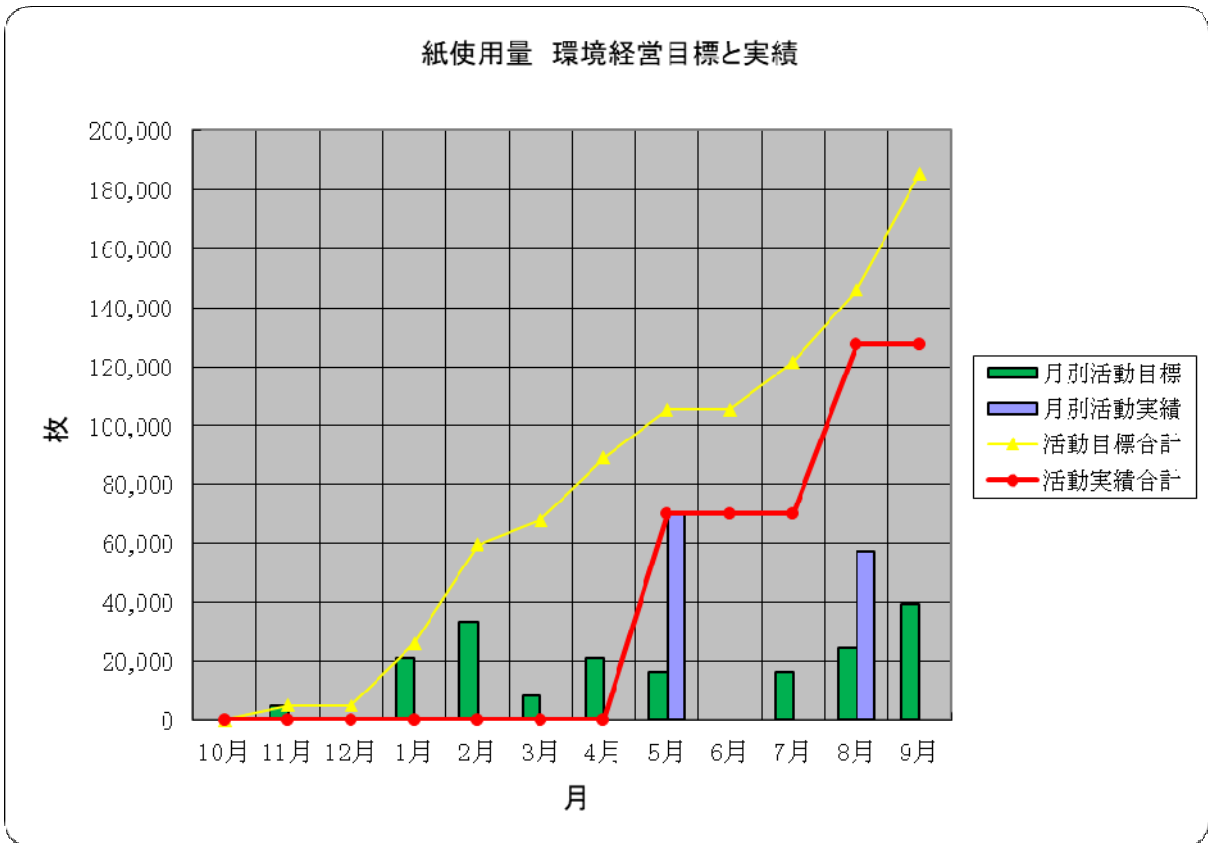
図表-5 廃棄物排出量 環境経営目標と実績表



図表-6 産業廃棄物排出量 環境経営目標と実績の推移



図表-7 一般廃棄物 環境経営目標と実績の推移



図表-8 紙使用量 環境経営目標と実績の推移

6.3 水資源投入量（排水量）の削減

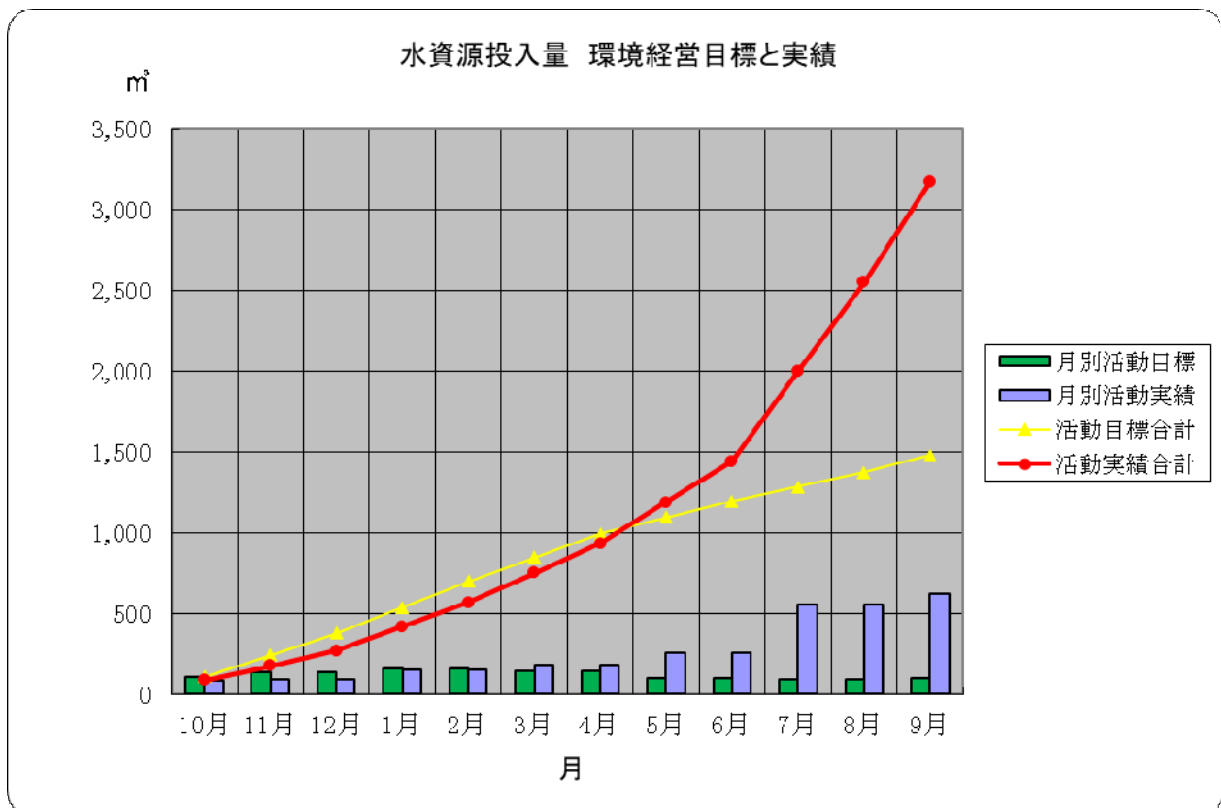
水資源投入量（排水量）については、図表-9、図表-10 に示す。基準値に対して 210.2% となり、大幅な目標未達となった。

水漏れが 2022 年 5 月から発生し、大幅な目標未達に繋がった。2022 年 9 月に補修工事を実施した。しかし水道管が老朽化していると思われるので、メーター確認等を行いながら注視していく。

(表中の達成率は、基準値からどれぐらい達成したかを示す。)

水資源投入量の環境経営目標と実績						
項 目	単 位	2021 年度 20.10~21.9 実 績	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022 年度 (21.10~22.9)		
				目 標	実 績	達成率
水資源投入量（排水量）	m ³	964	1,508	1,477	3,170	210.2%

図表-9 水資源投入量 環境経営目標と実績表



※単位は、立法メートルです。

図表-10 水資源投入量 環境経営目標と実績の推移

6.4 化学物質購入量の把握・削減

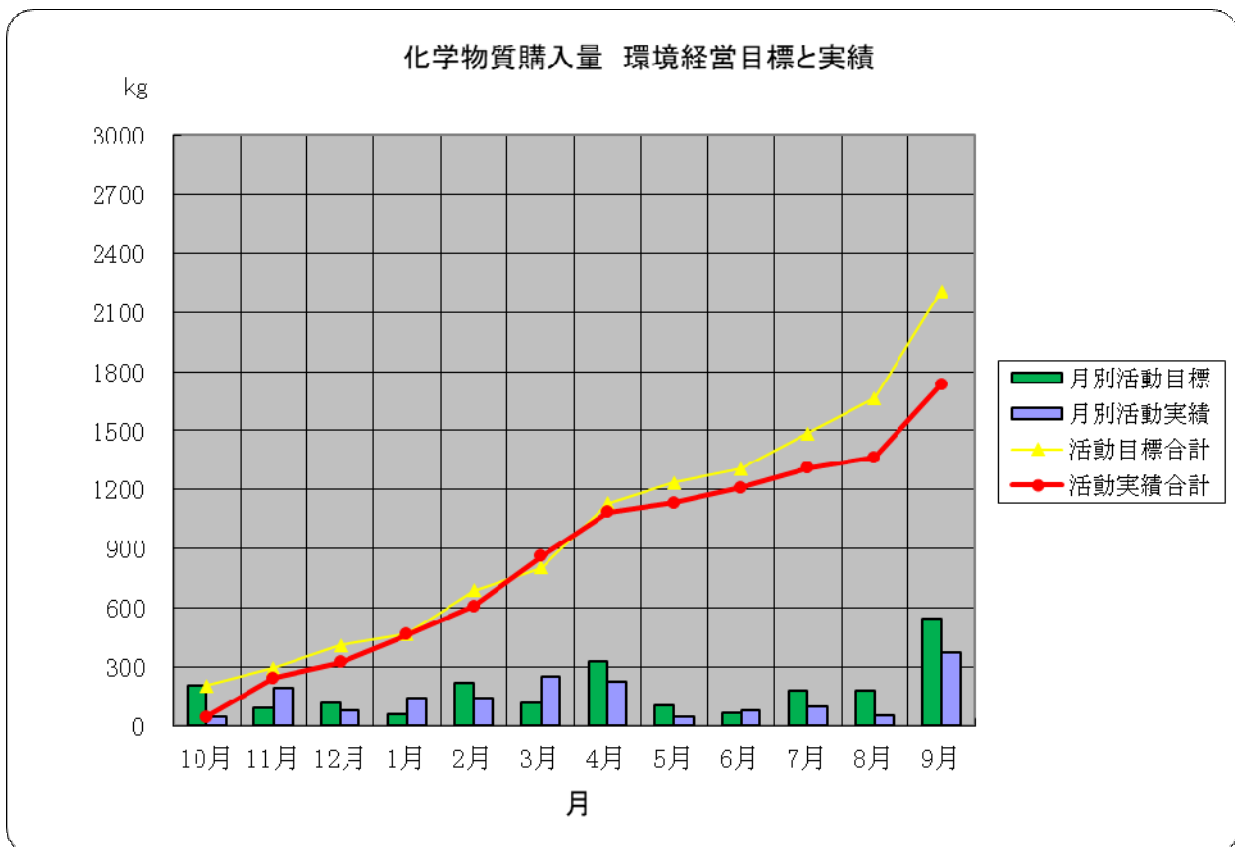
化学物質購入量については、図表-11、図表-12 に示す。基準値に対して、77.3%と目標達成できた。

仕事の受注動向等で左右されるので、数値管理は難しい。

(表中の達成率は、基準値からどれくらい達成したかを示す。)

化学物質購入量の環境経営目標と実績						
項目	単位	2021 年度 20.10~21.9 実績	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022 年度 (21.10~22.9)		
				目標	実績	達成率
化学物質購入量	ton	1.74	2.25	2.21	1.74	77.3%

図表-11 化学物質購入量 環境経営目標と実績の推移



図表-12 化学物質購入量 環境経営目標と実績の推移

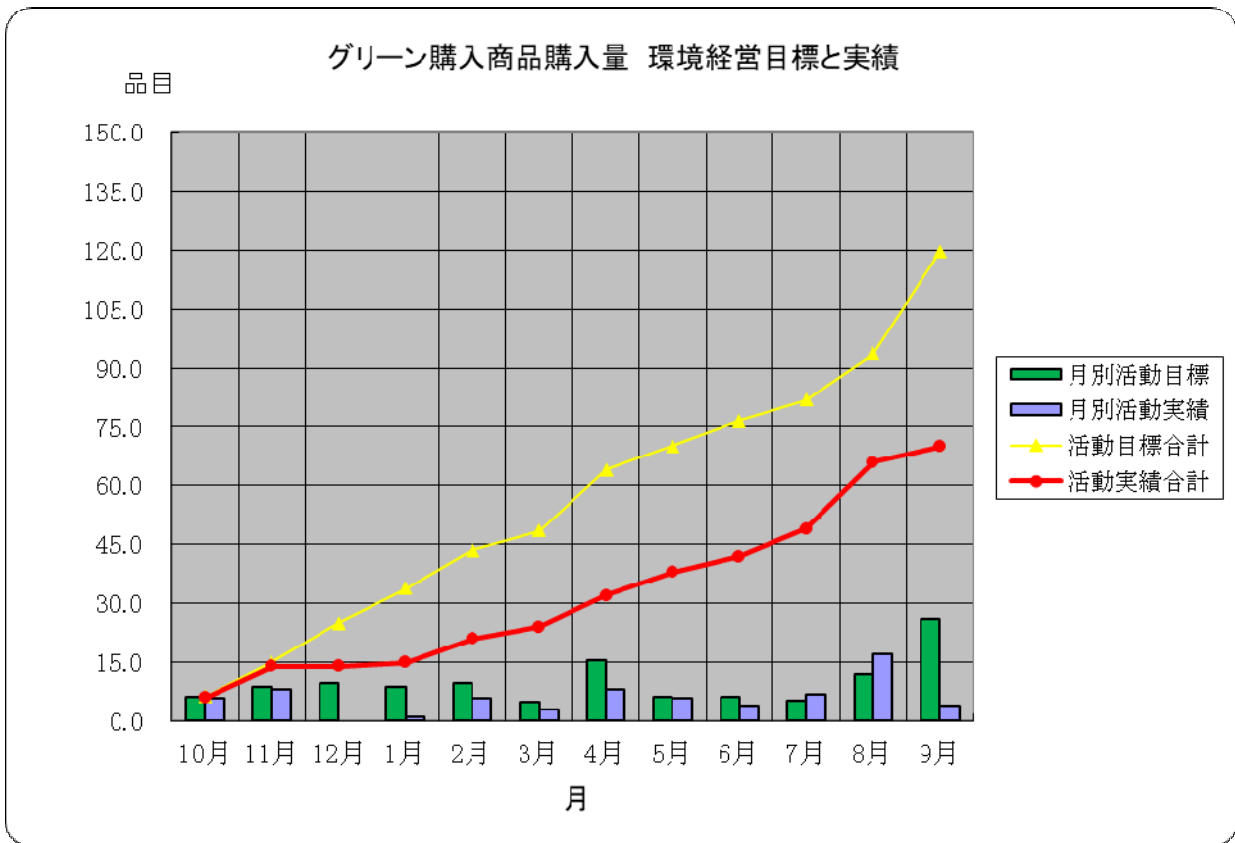
6.5 グリーン購入

グリーン購入について、図表-13、図表-14 に示す。基準値に対して、59.3%と目標達成できなかった。

グリーン購入商品は割高なものもある為、価格を比較し割安であれば購入するよう、継続して周知していく。(表中の達成率は、基準値からどれくらい達成したかを示す。)

グリーン購入の環境経営目標と実績						
項目	単位	2021 年度 20.10~21.9 実績	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022 年度 (21.10~22.9)		
				目標	実績	達成率
グリーン購入	品目	92	118	119.6	70	59.3%

図表-13 グリーン購入 環境経営目標と実績の推移



図表-14 グリーン購入 活動目標と活動実績の推移

6.6 本社事業所周辺の清掃

環境方針変更に伴い、2013 年度から新たにスタートした活動です。その結果を、図表-15 に示す。

毎月清掃をして、環境美化に努めている。

項目	単位	2021 年度 20.10~21.9 実績	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022 年度 (21.10~22.9)		
				目標	実績	達成率
本社事業所 周辺の清掃	回	10	12	12	9	75%

図表-15 事務所・工場周辺の清掃 環境経営目標と実績の推移

6.7 環境に配慮した工事施工

2014 年度から新たにスタートした活動です。その結果を図表-16 に示す。

関係法令・旭化成工事安全技術標準に基づいた工事施工を行っている。

項目	単位	2021 年度 20.10~21.9 実績	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022 年度 (21.10~22.9)		
				目標	実績	達成率
環境配慮施 工事施工	---	活動計画 遵守	活動計画 遵守	活動計画 遵守	活動計画 遵守	100%

図表-16 環境に配慮した工事施工 環境経営目標と実績の推移

6.8 環境経営計画の評価

今期の環境経営計画に対する評価は、図表-17 に示す。

項目	環境経営計画内容	経営方法等	評価結果
活動 P R	環境活動方針の周知徹底	環境方針の掲示	◎
二酸化炭素排出量の削減	①昼休みは事務所・工場内電灯消灯		◎
	②エアコンの運転監視をする。 (設定温度：冬季 21℃，夏季 26℃)	時間を決めて、on/off する。	○
	③フィルタの清掃を行う。	シーズン前に実施	○
	④エコドライブに努める。	P R (環境教育)	◎
	⑤車両の整備点検をこまめにする。	法定点検の遵守	◎
	⑥ストーブのメリハリのある使用	シーズン前の P R	△
	⑦チグニーのアイドリング防止	注意喚起	○
廃棄物排出量の削減	①分別回収でリサイクルに努める。	回収ボックスの区分	△
	②再利用排出に努める。	置場の区分	◎
	③パレット・梱包材の再利用	P R (環境教育)	◎
	④裏紙の再利用(個人情報、機密文書は使用しない)	P R (環境教育)	◎
	⑤シュレッダー処理は最小限にする。	P R (環境教育)	○
	⑥ペーパーレス化に努める。	社内 L A N、プロジェクトの活用	○
	⑦両面印刷・2 アップ印刷の活用	P R、カウンター調査	△
環境汚染防止	①チグニー燃料漏れ防止	オイルパンの設置	器材準備 良
	②油流出の防止	マット、吸着砂の配備	器材準備 良
	③エアコン・スポットクーラーの点検	点検チェックシート	△
	④溶接等の火花による火災防止	防災シート、防火用水、消火器の配備及び残火の確認	◎
水資源投入量の削減	①清掃時、節水に努める。	P R (貼り紙)	◎
	②水道メーターの確認	1 日 1 回確認/月曜日	△
グリーン購入	グリーン購入に努める。	エコマーク商品の購入	△
化学物質管理	毎月の購入量の把握	リストアップ	○
環境美化活動	本社事業所周辺の環境美化	月 1 回の清掃活動	○
環境配慮工事施工	①関係法令を遵守した工事施工		◎
	②旭化成工事安全技術標準を遵守した工事施工		◎
	③電動工具の点検	年 2 回の点検	◎
【環境経営計画の評価】			
<p>冬場のエアコンの運転管理は、外気温を考慮している。またストーブの使用についても寒い日が多いと使用が多くなるが、作業中はつけっぱなしにしないよう P R した。廃棄物は分別しているが、中には分別せずに捨てる人もいたので、分別して捨てるよう度々 P R している。またシュレッダー使用についても、不必要な使用をしないように P R していく。2022 年 5 月ぐらいから水漏れが発生していたので、2022 年 9 月に水漏れの補修工事を行った。グリーン購入は、購入量自体が減っているので管理が難しいが、継続して P R を行う。</p>			
<p>評価結果 ◎：実施中(良好) ○：実施中(あと一步) △：実施中(まだまだ) ×：実施されていない</p>			

図表-17 環境経営計画の評価【全社】

6.9 次年度の取組内容

次年度2023年度の取組内容は、図表-18に示す。2023年度の環境経営目標を図表-19に示す。

項目	環境経営計画内容	経営方法等	担当者	活動時期
活動PR	①環境経営方針の周知徹底	環境経営方針の掲示	浮島	6月・9月
二酸化炭素排出量の削減	①昼休みは事務所・工場内電灯消灯		各アイテム長、浮島	毎日
	②エアコンの運転監視をする (設定温度：冬季 22℃, 夏季 25℃)	時間を決めて、on/off する。	事務所全員	エアコン運転時
	③フィルタの清掃を行う	シーズン前に実施	浮島	6月・11月
	④エコドライブに努める	PR (環境教育)	浮島	6月・9月
	⑤車両の整備点検をこまめにする	法定点検の遵守	渡邊	適宜
	⑥ストーブのメリハリある使用	PR (環境教育)	各アイテム長、浮島	11月
	⑦チグニーのアイドリング防止	注意喚起	浮島、甲斐章	作業時
廃棄物排出量の削減	①分別回収でリサイクルに努める	回収ボックスの区分	浮島	通年
	②再利用排出に努める	置場の区分	各アイテム長	通年
	③パレット・梱包材の再利用	PR (環境教育)	各アイテム長	通年
	①裏紙の再利用(個人情報、機密文書は使用しない)	PR (環境教育)	浮島	通年
	②シュレッダー処理は最小限にする。	PR (環境教育)	浮島	通年
	③ペーパーレス化に努める	社内LAN、プロジェクトの活用	松田専務、浮島	通年
	④両面印刷・2アップ印刷の活用	PR、カウンター調査	浮島	通年
環境汚染防止	①チグニー燃料漏れ防止	防液堤の設置	工事監督者	作業時
	②油流出の防止	マット、吸着砂の配備	工事監督者	作業時
	④エアコン・スポットクーラーの点検	点検チェックシート	各アイテム長、浮島	3ヶ月に1回
	③溶接等の火花による火災防止	防災シート、防火用水、消火器の配備及び残火の確認	工事監督者	作業時
水資源投入量の削減	①清掃時の節水に努める	PR (貼り紙)	事務所全員	毎週金曜日
	②水道メーターの確認	1日1回確認	浮島	毎週月曜日
グリーン購入	グリーン購入に努める	エコマーク商品の購入	渡邊	商品購入時
化学物質管理	毎月の購入量の把握	リストアップ	浮島	毎月初旬
環境美化活動	本社事業所周辺の環境美化	月1回の清掃活動	事務所全員	第2月曜日
環境配慮工事施工	①関係法令を遵守した工事施工		浮島、甲斐章	工事毎
	②旭化成工事安全技術標準を遵守した工事施工		浮島、甲斐章	工事毎
	③電動工具の点検	年2回の点検	浮島、甲斐章	2月・8月

図表-18 2023年度の取組内容【全社】

項目		単位	2019~2021 実績平均値 (基準値)	2022 年度 21.10~22.9 実績	2023 年度 22.10~23.9 環境経営目標	基準値 対 比 増減率	
二酸化炭素 排出量	購入 電力	200V	kWh	93,996	88,168	90,236	-4%
		100V	kWh	53,957	58,213	51,799	-4%
		合計	kWh	147,953	146,381	142,035	-4%
	灯油		L	2,422	2,636	2,325	-4%
	ガス (LPG)		m ³	5.5	6.1	5.28	-4%
	ガソリン		L	8,725	7,801	8,376	-4%
	軽油		L	1,918	1,317	1,841	-4%
	二酸化炭素 排出量合計		kg-CO ₂	102,211	98,271	98,123	-4%
廃棄物 総排出量	コピー用紙使用量		枚	189,168	127,500	181,601	-4%
	一般廃棄物排出量		ton	0.43	0.46	0.42	-4%
	産業廃棄物排出量		ton	43.2	13.3	41.58	-4%
	廃棄物排出量合計		ton	43.6	13.7	42.0	-4%
水資源投入量 (排水量)		m ³	1,508	3,170	1,447	-4%	
化学物質購入量		ton	2.25	1.74	2.16	-4%	
グリーン購入		品目	118	70	120.8	+2%	
本社事業所周辺の清掃活動		回/年	12	9	12	---	
環境配慮工事施工		---	活動計画遵守	活動計画遵守	活動計画遵守	---	

※2023年度の活動目標は、2019年度～2021年度の実績の平均値から4%削減することを目標として計算しています。

※グリーン購入は、2019年度～2021年度の実績の平均値から2%増加することを目標として計算しています。

※九州電力 電力のCo₂排出係数は、基準値と2021年度=0.463、2022年度以降=0.479を使用しています。

※廃棄物排出量には、資源ゴミは含まれておりません。

図表-19 2023年度 環境経営目標

7 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

図表-20 に環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果を示す。

環境関連法規に関する違反について1年間の遵守状況を自ら確認及び評価した結果、違反はなかった。

また関係機関等からの指摘、地域からの環境に関する苦情・要望は過去4年間無く、訴訟等も同様に1件も無かった。

法規制等の名称	該当する要求事項	関連条例による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告等				関連部門	遵守評価		
					許可	届出	報告	義務		届出先	証拠	判定
廃棄物処理法	産業廃棄物排出事業者 ①委託収集運搬・処分業者契約及び許可証 写し保管(許可期限切れ更新) ②保管場所の確認、保管基準の遵守、飛散・ 浸透防止、衛生管理、表示 ③自社による運搬時の表示、書類携帯 ④産業廃棄物管理票(マニフェスト)交付 ⑤A、B2、D、E票の保管(5年間) D票90日、E票180日以内に送付がない 場合30日以内に知事報告 ⑥産業廃棄物管理票交付等状況報告書	県・市廃棄物処理法 施行細則	廃プラスチック、 木屑、廃油、 産業廃棄物(建設 木屑、コンクリート、 アスファルト等)	①契約書・許可証 1回/年 ②表示板 1回/年 ③表示・伝票携帯 ④常時確認	〇	〇	〇	〇	県知事	全社	許可証 契約書	〇
		廃棄物処理法に基づく 県知事・市長への報告		B2、D、E票が期日 を過ぎた時点	〇						報告期日 到達 マニフェスト	無
		⑦建設工事等の廃棄物、工事の元請業者が 排出事業者となって適正に処理	—	該当事務		〇				工事Gr.	マニフェスト	〇
		⑧水銀使用製品廃棄物の収集運搬又は 処分の許可を受けた者に委託 ⑨他の物と混合しないように仕切り等を設置 ⑩廃棄物の減量化、資源化その他の適正な 処理の確保に関する市の施策に協力する ⑪一般廃棄物処理計画に従い、廃棄物を 適正に保管し、及び分別すること	産業廃棄物処理法 施行令	水銀使用製品 (蛍光灯・水銀灯・HID ランプ)	処分委託時 保管時			〇		全社	契約書 許可証	〇
			延岡市廃棄物の処理 及び清掃に関する条例	一般廃棄物	廃棄時			〇		全社		〇
			—					〇				〇
			—					〇				〇
騒音規制法	①空気圧縮機、送風機等の特定施設届出 ②規制基準の遵守	県、市条例 3.75kW以上	コンプレッサー、プレス フライス盤、旋盤、 ラジアル、マシニング、 ペンディングロール	新設・変更時 氏名等変更時 地位継承時 事故発生時	〇				延岡市	工事Gr. 機械Gr. 製缶Gr.	(新設) (有無)	〇
家電 リサイクル法	家庭電化製品の資源の有効利用促進 ①なるべく長期間使用 ②適切な引き渡し、リサイクル料金負担	—	家庭用エアコン、液晶 TV、冷蔵庫、洗濯機	廃棄時					販売店	総務	廃棄 (有無)	〇

法規制等の名称	該当する要求事項	関連条例による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告等				関連部門	遵守評価		
					許可	届出	報告	義務		届出先	証拠	判定
資源の有効利用 促進法	パソコンの長期使用、廃棄時のメーカー引取	—	パソコン	廃棄時					メーカー	総務	届出書	〇
建設リサイクル法	特定の建設資材について、その分別・解体 等及び再資源化等の促進 再生資源の十分な利用及び廃棄物の減量、 適切な処理 ①コンクリート ②アスファルト・コンクリート ③木材 ④コンクリート及び鉄からなる建設資材	—	床面積合計80㎡以上 の解体作業、 床面積合計500㎡ 以上の新築・増築 工事等	解体 新築・増築時	〇				延岡市	工事Gr.	該当事務 (有無)	〇
消防法	①火災報知機の設置 ②屋内消火栓の設置 ③消防用設備等の点検報告 ④防火管理者の選任及び解任の報告 ⑤危険物取扱い ⑥圧縮アセチレンガスの貯蔵 ⑦火を使用する設備の設置届 ⑧火を使用する設備の自主定期点検	工場500㎡以上 工場700㎡以上 火災報知機・消火器 灯油200ℓ以上 アセチレン40kg 延岡市火災予防条例 火災予防条例施行規則	該当なし 該当なし 放電加工機	建設時届出 建設時届出 3年に1回 選任時・解任時 設置時 定期的に	〇 〇 〇 〇 〇				延岡市	総務 製缶Gr. 機械Gr. 工事Gr. 機械Gr.	設置届 設置届 報告書 届出書 設置届 設置届 設置届 点検簿	〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
循環型社会 形成推進 基本法	建設工事の施工者	—	施工方法の工夫 施工技術の開発等	受注時			〇		宮崎県	工事Gr.	該当事務 (有無)	〇
労働安全衛生法	一定の危険性/有害性が確認された物質に ついてリスクアセスメントの実施	—	工場全体	随時			〇			全Gr.	書類確認	〇
自動車 リサイクル法	①使用済自動車の引取業者引き渡し ②新車購入時のリサイクル費用負担	—	自動車	廃車時 新車購入時			〇		販売店	総務	廃棄 (有無)	〇
悪臭防止法	①悪臭物質の規制と防止対策 (悪臭物質:トルエン等22物質)	当社:B地域 規制基準:敷地境界線	該当なし	—					延岡市	総務	悪臭の (有無)	〇
水質汚濁防止法	①有害物質を使用する特定施設の届出 (ラサン、酸又はアルカリによる表面処理 施設) ②構造及び使用方法の基準、定期点検の 義務、点検記録の3年間保存	—	酸洗い場	①年1回または 月1回	〇				宮崎県 (保健所)	製缶Gr. 工事Gr.	書類確認	〇

法規制等の名称	該当する要求事項	関連条例による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告等				関連部門	遵守評価	
					許可	届出	報告	義務		届出先	証拠
フロン排出抑制法	①第1種特定製品の簡易点検 ②第1種特定製品のうち、一定規模以上の業務用機器の定期点検 ③フロン漏洩の対処 ④記録の保管(製品設置から廃棄まで) ⑤一定以上漏洩時の所管大臣への報告義務(1,000CO ₂ -ton以上) ⑥機器廃棄時の確実なフロン回収(フロン回収済証明書の発行も依頼)	—	業務用空調機 スポットクーラー	①3ヶ月に1回 ②3年に1回(該当なし) ⑥廃棄時				所管大臣	総務	点検表 記録及び報告書 証明書	○ ○ ○
土壌汚染対策法	①土地の形質変更を行う場合は、あらかじめ事前に都道府県に届ける	—	本社全体	事前に届出				宮崎県	総務	該当工事(有)	○
大気汚染防止法	①建築物・工作物を解体・改造・補修する際、石綿含有建材が使用されていないか事前調査を行い、結果を報告。(届出対象特定工事は工事開始14日前) ②建築物の事前調査は、必要な知識を有する者に実施させる。 ③一定規模以上の建築物等の解体工事等において、石綿含有建材の有無に関わらず事前調査を行い、結果を報告。 ④特定粉じん排出等作業を行う場合は事前に都道府県及び労基署に届出 ⑤届出対象特定工事ではない場合でも作業計画作成(特定粉じん排出等作業を行う)。 ⑥調査記録等の3年間の保存、調査記録の写を現場に備え置く、事前調査結果及び特定粉じん排出作業に係る掲示。	—	元請として工事を行う場合 元請として工事を行う場合(2023年10月～) 元請として工事を行う場合(2022年4月～) 工事を発注した場合 元請として工事を行う場合	事前に報告 — 事前に報告 事前に届出 事前に作成 —				発注者 宮崎県 宮崎県労基署	工事Gr. 総務	該当工事(有)	○ ○ ○ ○ ○ ○
毒物及び劇物取締法	①毒物及び劇物等の保管場所等に、「医薬用外」の文字、毒物は赤地に白色をもって「毒物」の文字、劇物は白地に赤色をもって「劇物」の文字を表示すること。	—	ラスノン保管場所	—					製缶Gr. 工事Gr.		○

図表-20 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果

8 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション 21 (2017 年版) に基づき、2022 年度代表者による全体の評価と見直し記録を下記に示す。

活動を始めて今年で 15 年になり、その中でガイドライン改定や環境方針の見直し、活動内容の変更等はあったが順調に活動を継続できているので、引き続きガイドラインに沿った活動をお願いする。

2019 年 9 月末に本社内のエアコン 3 台の入れ替えを行い、省エネ効果が継続して出ている。また 2021 年 9 月末には事務所のエアコン 5 台にハイブリットファンを取り付けたことで、エアコンの風を攪拌させ事務所に均等にいきわたらせることにより、エアコンの運転効率を良くすることで、省エネ効果が継続している。

水使用量については、2022 年 5 月頃に水漏れが発生し 9 月に補修工事をしたが、今後も老朽化による水漏れが十分予想されるので、水道メーター等を注視しつつ、水漏れ発生が疑われる場合は早急に対応する。

ごみについては、一般廃棄物排出量が多くなっており、特にシュレッダー使用によるシュレッダー屑の増加と分別の不十分が影響していると思われるので、シュレッダーの適正使用及び適正な分別の周知徹底を図っていく。

数値目標については、新たに 3 年計画がスタートしたので、新しい数値目標での活動を行ったが、一部目標未達の項目もあり、難しい活動となった。

エコアクション活動は、環境事務局・社員・協力企業社員の地道な積み重ねのおかげで浸透してきた。今後も引き続きエコアクション活動に取組み、また環境に対する更なる意識の向上を図っていく。